2.5 カルデラ形成噴火堆積物の噴出量

【実施内容】

カルデラ形成を伴う大規模噴火の噴出量は、長期的噴火予測、噴火の活動度評価、地球物理学 的・岩石学的な定量的評価を行うための重要な基本パラメータの 1 つであり、マグマ噴出量・時 間階段図の高精度化のためにも重要である. 平成 27 年度は, 阿蘇 4 火砕流堆積物及び十和田八 戸火砕流堆積物,平成28年度は,姶良入戸火砕流堆積物及び十和田毛馬内火砕流堆積物,平成 29 年度は、洞爺火砕流堆積物、屈斜路 IV 火砕流堆積物及び屈斜路 I 火砕流堆積物を対象に、噴 火直後の復元分布図と噴出量推定を行った.これらの噴出量には,降下テフラは含まれておらず, 総噴出量を求めるためには、火砕流に伴う降下テフラの噴出量の推定が必要となる.今年度は、 上記の内,比較的影響が大きいと思われる阿蘇4噴火,姶良Tn噴火,洞爺噴火に伴う降下テフ ラの噴出量を推定した.推定に当たっては、既存の陸域及び海域の降下テフラの情報を収集し、 新たに等層厚線図を作成した上で,降下テフラの噴出量と,総噴出量を推定した.阿蘇4降下テ フラの体積は、590~920 km³ (240~370 km³DRE)と推定され、火砕流堆積物と合わせた阿蘇4 噴火の総噴出量は,840~1,640 km³ (380~790 km³DRE)となった.姶良 Tn 降下テフラの体積 は、440 km³ (180 km³DRE)と推定され、火砕流堆積物と合わせた姶良 Tn 噴火の総噴出量は、 940~1,040 km³ (380~430 km³DRE)となった. 洞爺降下テフラの体積は, 150 km³ (60 km³DRE) と推定され,火砕流堆積物と合わせた洞爺噴火の総噴出量は,230~310km³(100~140km³DRE) となった.

【研究成果】

(1) 阿蘇4

約 89ka の阿蘇 4 噴火に伴う降下テフラについて,既存の文献から,陸域及び海域の降下テフ ラの位置,層厚を集め整理した (表 2.5-1).阿蘇 4 降下テフラは,Albert et al. (2018),Smith et al. (2013)の水月湖の降下テフラ,Aoki (2008),Furuta et al. (1986),中嶋ほか (1996),新井ほ か(1981),新井・町田 (1983),清水ほか (1997),町田ほか (1985),青木ほか (2000),青池 (2010) の海底の降下テフラ,檀原ほか (2010),竹村・横山 (1989)の琵琶湖の湖底の降下テフラ,町田 ほか (1985),長橋ほか (2007)の陸域の降下テフラの文献データを使用した.

位置情報と層厚データを、GIS ソフト(ArcGIS)上にプロットした上で、等層厚線図(1,2,4,8, 16,32,64,128 cm)を作成した、阿蘇4降下テフラの分布の特徴として、北海道北東部に層厚15 cmのデータが数点あり、それらは本州付近のデータに比べて厚い傾向があることが挙げられる。 北海道北東部のデータを活かし、比較的広い範囲を囲むように作成した等層厚線図が、図 2.5-1 である(最大ケース).一方、北海道北東部のデータは異常値として等層厚線図には反映せず、そ の他のデータを活かして作成した等層厚線図が、図 2.5-2 である(最小ケース).各等層厚線が占 める面積を GIS ソフトで計算し、区間積分法(宝田ほか,2001)で体積を推定した。

最大ケースでは、 16 cm と 64 cm で区切り、グラフ上で直線近似できる 3 つの領域に区分し て体積を求めた (図 2.5-3).火口近傍は、現在の阿蘇カルデラの面積 (5.3×10⁸ m³) まで、遠方 は、10¹⁴ m²の領域まで計算した.カルデラ縁での層厚は、64 cm と 128 cm の等層厚線のデータ の傾向を外挿し、約 3m とした.その結果、遠方から 16 cm の等層厚線の領域では 4.0×10¹⁴ kg、 16~64 cm の等層厚線の領域では 4.7×10¹⁴ kg, 64 cm からカルデラ縁までの領域では 4.7×10¹³ kg となり,合計 9.2×10¹⁴ kg となった.降下テフラの密度を 1,000 kg/m³ と仮定すると,それぞれ,400 km³,470 km³,47 km³ となり,合計 <u>920 km³</u> となった.密度 2,500 kg/m³の溶岩換算値 (DRE)では,合計約 370 km³ となった.

No	経度	緯度	データ	層厚	文献	注册
1	135.8833333	35 58333333	SG06 - 3.5cm	3.5 cm	Albert et al. (2018). Smith et al. (2013)	水日湖
2	152 5081667	40.49966667	1 MR98-05 St 1PC - ash pod	nod	Acki (2008)	71771 001
3	1/3 3673333	30 18183333	2 ODP L eg186 Hole 1150A - (2cm)	2cm	Acki (2008)	
3	143.30733333	35.101033333	4 MD01 2421 _ ach pad	2011	Acki (2008)	
4	141.70	20.02333333	E MP00 K0E PC 2 form	6 om	Acki (2008)	
5	140	39.99963333	5 MR00-R05, PC-2 - 8cm	6 cm	A 0KI (2008)	
6	146.4161667	33.08333333	9 MR01-R02, PC-1 - 9cm	9 cm	A 0KI (2008)	
/	147.5003333	30.5	10 MR00-R05, PC-1 - 7cm	/ cm	Aoki (2008)	
8	159.1283333	33.3625	11 KH96-3, SKY-S2 - (2.4cm)	2.4 cm	Aoki (2008)	
9	158.6716667	36.13833333	12 KH96-3, SKY-C1 - 1cm	1 cm	Aoki (2008)	
10	162.7163333	37.749	13 MR98-05, St.6PC - 1cm	1 cm	Aoki (2008)	
11	145.0041667	44.5275	14 MD01-2412 - 3cm	3 cm	Aoki (2008)	
12	149.5246711	35.36970221	KH74-4-1 3.5cm	3.5 cm	Furuta et al. (1986)	位置情報は概略. 地図から読み取り
13	137.6686667	39.4155	26 - ?cm	?	中嶋ほか(1996)	
14	139.034	39.69266667	34 - ?cm	?	中嶋ほか(1996)	
15	138.1958333	39.47316667	38 - ?cm	?	中嶋ほか (1996)	
16	138.2311667	40.19	794A - ?cm	?	中嶋ほか(1996)	
17	138.967	40.987	795A - ?cm	?	中嶋ほか (1996)	
18	134.536	38.616	797A - ?cm	?	中嶋ほか(1996)	
19	131.5540935	37.59781905	P106 - (3cm)	3 cm	新井ほか(1981)	
20	131.9790556	37.57949478	KH77-3-M3 - (3cm)	3 cm	新井ほか(1981)	
21	134.7071584	37.06128466	KH79-3-C3 - tr.	tr	新井ほか(1981)	
22	136.9351326	40.74756454	P129 - (1.5cm)	1.5 cm	新井ほか(1981)	
23	131.41247	36.80957119	KH82-4-23 - (1cm)	1 cm	新井·町田 (1983)	
24	133.9005662	37.00627396	KH82-4-16 - (2cm)	2 cm	新井·町田 (1983)	
25	134.2671848	37.26124996	KH82-4-17 - (3cm)	3 cm	新井·町田 (1983)	
26	137.3471762	29.40052927	KH76-2-7 - (15cm)	15 cm	新井·町田 (1983)	
27	146.5662828	34,14361165	KH80-3-12 - (2cm)	2 cm	新井·町田 (1983)	
28	136.01075	35.22153769	B43-1 - 6.7cm+	> 6.7 cm	檀原ほか(2010), 竹村・横山(1989)	
29	143 3648141	38 8949795	KH94-3 LM8 PC5 - 10cm	10 cm	這水時か(1997) 清水時か(1997)	
30	131 3//3066	32 028/6232	2a - afa2 75cm	75 cm	mm(FA) (1985)	1 de 0 0
31	131 38507	32.0567030	2h - afa2 35cm	35 cm	町田(チカ) (1985)	1.00100
22	121 50262	22.0307355	2d ofference for 60 cm	60 om	町田(まか)(1965)	7.9/101
32	120 6626420	22.17170343	20 - phot ata 600m	45 om	m(m)(2,), (1965)	7.91 H H
33	130.0020429	33.8732038		45 cm	mj m(1205)	74911 HI H
34	139.0382317	41.42922104	KH84-3-10 - (4cm)	4 cm	mj m(12)2 (1985)	御広
35	135.4587068	38.31115712	KH84-3-16 (4.6cm)	4.6 cm	町田(12)2 (1985)	海底
36	139.1598629	41.83584152	KH84-3-9 - (6.4cm)	6.4 cm	町田(12)(1985)	海底
37	144.9829331	37.20815455	KH69-2-4 - (4cm)	4 cm	前田(132)(1382)	海底
38	132.7341053	35.01151127	3d - tr.	tr	町田ほか(1985)	陸上
39	132.9207449	35.14316417	3e - tr	tr	町田ほか (1985)	陸上
40	133.7240011	35.374821	3f - tr	tr	町田ほか (1985)	陸上
41	137.8685804	36.55975236	4a - tr.	tr	町田ほか (1985)	陸上
42	139.0001766	35.37825784	4b - 3cm	3 cm	町田ほか (1985)	陸上
43	139.0485086	35.22328047	4c - 5cm	5 cm	町田ほか (1985)	陸上
44	139.1468232	35.60156894	4d - 3cm	3 cm	町田ほか (1985)	陸上
45	138.8701854	35.66488741	4e - 2cm	2 cm	町田ほか (1985)	陸上
46	139.2718161	35.34493881	4f - tr.	tr	町田ほか (1985)	陸上
47	139.4784669	35.29994895	4g - tr.	tr	町田ほか (1985)	陸上
48	139.6306202	35.22329125	4h - tr.	tr	町田ほか (1985)	陸上
49	140.0866869	36.99808861	4i - 2cm	2 cm	町田ほか (1985)	陸上
50	140.6549209	38.2196353	5a - 4cm	4 cm	町田ほか(1985)	陸上
51	141.1481428	39.8761268	5b - 10cm	10 cm	町田ほか (1985)	陸上
52	141.4514263	40.54272044	5c	?	町田ほか (1985)	陸上
53	141.2831081	40.54771567	5d - 1cm	1 cm	町田ほか (1985)	陸上
54	140.034903	40.15272933	5e - 5cm	5 cm	町田ほか (1985)	陸上
55	141.091404	41.76258034	6a - 1cm	1 cm	町田ほか (1985)	陸上
56	140.8530506	42.47916338	6b - tr.	tr	町田ほか(1985)	陸上
57	141.8962864	42.66584131	6c - tr.	tr	町田ほか(1985)	陸上
58	141.6512156	44.31398242	6d - 12cm	12 cm	町田ほか (1985)	陸上
59	143.3111848	42.31759485	6e - 10cm	10 cm	町田ほか(1985)	陸上
60	143.1395233	42.50423425	6f - 5cm	5 cm	町田ほか(1985)	陸上
61	144.1644044	42.9942148	6g - 5cm	5 cm	町田ほか (1985)	陸上
62	144.3160158	43.96243878	6h - 15cm	15 cm	町田ほか(1985)	陵
63	144 3793469	43 85245352	6i - 15cm	15 cm	町田ほか(1985)	版 h
6/	144 6493222	43 86579213	6i - 15cm	15 cm	mmifmi (1985)	ra
94 23	138 0352779	36 5/861111	TKN-2004 >3cm	>3 cm	長橋ほか (2007)	PET-das
60	142 0166657	40 555	A MR00 K04 (2cm)	2 om	大回いか(2007) ますにか(2000)	
67	140.95	40.000	P MD00 K04 - 2 Ecm	0 5 0	月小はか*(2000) キャンチャン (2000)	
0/	143.00	40.00333333		0.5 cm	日本はか(2000)	
68	152	37.5	D IVIR99-KU4 - 4CM	4 CM	百不はか(2000)	
69	152.5	35.00033333	E MIR98-03 - 1.5CM	1.5 CM	百不はか(2000)	
70	142.2005472	41.18366667	C9002B - 5cm	5 cm	育池はか(2010)	
71	142.20135	41.1773	Ca001C - 3cm	3 cm	青泡はか(2010)	

表 2.5-1 阿蘇4降下テフラの位置情報, 層厚, 文献リスト



図 2.5-1 阿蘇4降下テフラの分布と等層厚線図(最大ケース)



図 2.5-2 阿蘇4降下テフラの分布と等層厚線図(最小ケース)



図 2.5-3 阿蘇4 降下テフラの各等層厚線の面積と単位面積あたりの重量の関係(最大ケース). 16 cm と 64 cm の等層厚線で分割し3つの領域に区分した.火口近傍はカルデラの面積,遠方は 10¹⁴ m²まで計算している.



図 2.5-4 阿蘇 4 降下テフラの各等層厚線の面積と単位面積あたりの重量の関係(最小ケース). 4 cm と 64 cm の等層厚線で分割し3つの領域に区分した.火口近傍はカルデラの面積,遠方は 10¹⁴ m²まで計算している.

最小ケースでは、4 cm と 64 cm で区切り、グラフ上で直線近似できる 3 つの領域に区分して 体積を求めた (図 2.5・4).火口近傍は、現在の阿蘇カルデラの面積 (5.3×10⁸ m³) まで、遠方は、 10¹⁴ m² の領域まで計算した.カルデラ縁での層厚は最大ケースと同様に約 3m とした.その結 果、遠方から 4 cm の等層厚線の領域では 1.7×10¹⁴ kg、4~64 cm の等層厚線の領域では 3.8× 10¹⁴ kg、64 cm からカルデラ縁までの領域では 4.5×10¹³ kg となり、合計 5.9×10¹⁴ kg となっ た.降下テフラの密度を 1,000 kg/m³ と仮定すると、それぞれ、170 km³、380 km³、45 km³ とな り、合計 <u>590 km³</u>となった.密度 2,500 kg/m³の溶岩換算値 (DRE)では、合計約 240 km³ とな った.

今回求められた阿蘇4降下テフラの推定体積 <u>590~920 km³</u> (240~370 km³DRE)の値は,こ れまでの推定値400 km³以上(町田ほか,1985;町田・新井,2003)よりも有意に増加している. これは,当時は十分考慮されていなかった遠方の海域のテフラが考慮されたことによって分布域 が大幅に広がったことや,体積の計算手法が異なることなどが原因であると考えられる.

	噴出量 (km ³ bulk) 是小 是士 亚均			噴出量(km ³ DRE) 是小 是士 亚均				
			取小	取人	平均	取小	取人	平均
		非溶結·未区分	7.6	37.1	21.3	3.7	17.8	10.2
	現存	溶結	5.6	16.6	10.9	3.6	10.6	6.9
		合計	13.2	53.7	32.1	7.2	28.4	17.1
	噴火直後 推定 カルデラ 内部	非溶結·未区分	82.8	288.9	173.8	39.7	138.7	83.4
阿蘇4 火砕流堆積物		溶結	163.5	429.3	296.7	104.6	274.8	189.9
		合計	246.2	718.2	470.5	144.4	413.4	273.3
		非溶結·未区分	42.3	145.4	105.8	20.3	69.8	50.8
		溶結	49.3	71.9	64.3	31.6	46.0	41.1
		合計	91.6	217.4	170.1	51.9	115.9	91.9

表 2.5-2 阿蘇 4 火砕流堆積物の体積推定結果

阿蘇 4 火砕流堆積物の体積の推定値(表 2.3-2; 平成 27 年度実施,平成 28 年度に再推定)は, 720 km³ (最大), 470 km³ (平均), 250 km³ (最小)であり, DRE 換算では, 420 km³ (最大), 270 km³ (平均), 140 km³ (最小)であった. したがって,阿蘇 4 噴火の総噴出量は, <u>840~1,640 km³</u> となり, DRE 換算値では, 380~790 km³ と推定される. これまでの総噴出量の推定値 600 km³ (町 田・新井, 2003) に比べ約 1.4~2.7 倍となった. 阿蘇 4 は, VEI7~8 クラスの噴火であったと考 えられる.

(2) **姶良 Tn**

約 30 ka の噴火に伴う姶良 Tn(姶良丹沢)降下テフラについて,既存の文献から,陸域及び海域の降下テフラの位置,層厚データを集め整理した(表 2.5-3a, b). 姶良 Tn 降下テフラは,河

No	経度	緯度	データ	層厚	文献	注釈
1	131.435	32.02361111	宮崎県佐土原町	50 cm	河合・三字 (1999)	AT3. AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
2	131.4647222	32.09777778	宮崎県新富町	50 cm	河合・三宅 (1999)	AT3. AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
3	131.6016667	32.09777778	宮崎県高鍋町	25 cm	河合・三宅 (1999)	AT3. AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
4	132 6938889	32 98194444	高知県宿下市	17-20 cm	河合・三字 (1999)	AT3 AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
5	131 6019444	34 31361111	山口県阿本町	12 cm	河会・三字(1999)	AT3 AT4 入戸火砕液のco-ashの合計
6	132 7183333	34.32555556	広島県東瀬町	30 cm	河合・三字(1999)	AT3 AT4 入戸火砕液のco-ashの会計
7	133 5755556	35 2875	岡山県田上村	18 cm	河合・三字(1999)	AT3 AT4 入戸火砕液のco-ashの合計
8	133.5469444	35 41527778	向田永/山工行 真府具士山町	18 cm	河合,三宅(1995)	AT3 AT4 3 百火砕液のco-ashの合計
9	133 7327778	35.42888889	自由且合士市	21 cm	河合,三宅(1995)	AT3 AT4 3 百火砕液のco-ashの合計
10	134 4130556	35 21027778	后庸具千頭肛	11 cm	河合,三宅(1000)	AT3 AT4 入口火碎液のco-ashの合計
11	124 5660444	25.06472222		21 cm	同日 三七(1993)	AT2 AT4 3 回火动法のco-achの合計
12	125 1/22220	25 22961111	六車示[16] ² 丘康県市良町	25 cm	河合,三宅(1995)	AT2 AT4 3 百少动法のco-ashの合計
12	135.1400009	25 5011111	兴即乐印面列 短世里並送取	25 Cm	何合・二七(1999)	AT3, AT4 入户久祥元のco-ashの合計
13	120.0122222	26 26044444	恒井州天供可 目昭自弘士士	15 cm	何合・二七(1999) 可合・二字(1000)	
14	127 9705556	26 6420555	双对 死伍不印 耳厩自占国44	F om	回合, 三宅 (1999)	
15	137.8705556	30.04305550	支町県口尚有 長町県(注)進取	o cm	何合・三七(1999)	AT3,AT4 人戸火碎荒のco-ashの合計
10	130.2241007	30.0075	大町県旧蔵町	o cm 7. cm	何音•二七(1999)	AT3,AT4 人戸火祥派のco-ashの合計
10	139.0300330	33.07555556	東京御八天局	7 cm	何合,二七(1999)	AT3,AT4 入戸火祥派のco-ashの合計
18	131.9952778	31.99527778	呂附県小林市 (2)(秋田)(秋田)	30 cm	河合(2001)	AT3, AT4 入戸火候流のco-asnの合計
19	131.2469444	31.97416667	宮崎県渡町	50 cm	河谷(2001)	A13, A14 人戸火候流のco-ashの合計
20	131.2305555	31.97916667	宮崎県渡町	80 cm	问谷(2001)	A13, A14 人戸火僻流のco-asnの合計
21	131.2786111	32.02805555	21時県国富町	90 cm	问谷(2001)	A13, A14 人戸火碎流のco-asnの合計
22	131.4091667	32.04388889	宮崎県土原町	55 cm	初合 (2001)	A13, A14 人戸火碎流のco-ashの合計
23	131.4277778	32.10555556	宮崎県西都市	100 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
24	131.4411111	32.095	宮崎県新富町	50 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
25	131.4344444	32.10166667	宮崎県新富町	40 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
26	131.5102778	32.13888889	宮崎県高鍋町	35 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
27	133.9186111	33.84944444	高知県安芸市	40 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
28	132.6858333	35.24027778	島根県佐田町	20 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
29	133.6327778	35.42472222	局根県東伯町 2.15-25-25-5	19 cm	初合(2001)	A13, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
30	133.7113889	35.36805556	局根県関金町	19 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
31	135.1383333	35.01444444	兵庫県今田町	30 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
32	134.6958333	35.49111111	兵庫県日高町	18 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
33	135.1033333	35.73722222	京都府丹後町	12 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
34	135.94	34.59444444	奈良県天理市	7 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
35	135.6888889	33.86777778	和歌山県本宮町	45 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
36	136.0563889	35.94583333	福井県織田町	6 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
37	136.9230556	36.53694444	富山県井口村	6 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
38	137.375	36.57666667	富山県立山町	14 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
39	139.0102778	36.48361111	長野県軽井沢町	6 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
40	138.8936111	35.34916667	静岡県御殿場市	12 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
41	140.1772222	35.38583333	千葉県市原市	3 cm	河合 (2001)	AT3, AT4 入戸火砕流のco-ashの合計
42	135.8833333	35.58333333	水月湖	35.1 cm	Smith et al. (2013), Albert et al. (2018)	A-14-01, B-13 Bottom
43	130.4166667	41.333333333	日本海北部	3 cm	新井・町田 (1983)	St. 6913 E4
44	132.2166667	40.28333333	日本海北部	3 cm	新井・町田 (1983)	St. 6920 F4
45	132.65	40.86666667	日本海北部	5 cm	新井・町田 (1983)	KH69-2-25 F4
46	137.0183333	41.005	日本海北部	5 cm	新井・町田 (1983)	KH77-3-M5 H4
47	131	38.58333333	日本海南部	8 cm	新井・町田 (1983)	s66-43 E5
48	130.5616667	36.93	日本海南部	2 cm	新井・町田 (1983)	P103 E6
49	131.1183333	36.415	日本海南部	5 cm	新井・町田 (1983)	P104 E6
50	131.155625	36.80666667	日本海南部	6 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-23 E6
51	131.368125	37.57666667	日本海南部	12 cm	新井・町田 (1983)	KH77-3-M3 E6
52	133.21	36.73833333	日本海南部	14.5 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-15 F6
53	133.33875	37.003333333	日本海南部	1 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-16 F6
54	134.21625	38.485	日本海南部	5 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-19 G5
55	135.10875	38.52333333	日本海南部	6.5 cm	新井・町田 (1983)	P127 G5
56	134.0625	36.42666667	日本海南部	4 cm	新井・町田 (1983)	KH77-3-M2 G6
57	134.10125	37.25833333	日本海南部	10 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-17 G6
58	134.26625	37.05833333	日本海南部	1.5 cm	新井・町田 (1983)	KH79-3-C3 G6
59	134.26375	37.07166667	日本海南部	20 cm	新井・町田 (1983)	KH79-3-L3 G6
60	134.359375	35.78833333	日本海南部	3.5 cm	新井・町田 (1983)	P124 G6
61	135.066875	37.73	日本海南部	18 cm	新井・町田 (1983)	KH77-3-M4 G6
62	136.125	38.61666667	日本海南部	2 cm	新井・町田 (1983)	V28-268 H5
63	137.20625	39.12833333	日本海南部	2.2 cm	新井・町田 (1983)	T1 M5
64	127.13125	27.93333333	東シナ海	1 cm	新井・町田 (1983)	P68 C11
65	129.013125	31.74	東シナ海	32 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-14 D9
66	132.286875	28.385	フィリピン海	5 cm	新井・町田 (1983)	KH82-4-8 F10
67	133.096875	25.52166667	フィリピン海	<25 cm (mix)	新井・町田 (1983)	KH77-1-2 F12
68	144.37	37.205	フィリピン海	1 cm ?	新井・町田 (1983)	KH69-2-4 L6
69	130.6572273	33.71504836	九州北部	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
70	130.6116657	33.15547394	九州北部	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
71	130.1449671	33,29932805	九州北部	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は機略 論文の図からの読み取り
72	130.7742098	32,73080919	九州中部	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は機略 論文の図からの読み取り
73	130.999555	32.89614347	九州中部	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は標路 論文の図からの読み向り
74	131.186727	33.07568225	九州中部	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの違こわり
75	131 2938583	32 979213	1.3.4 mm 九州中部	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図れたの読み色り
76	131 2507595	31 89319866	九州南部	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み色り
77	131.3911385	31.94781222	人 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図かたの語み面り
78	130 4244937	31.66800866		10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は構築 論文の図かたの語ならり
70	130.4207005	31 50471402	/ 5/01710P	10-50 cm	Machida and Arei (1983)	山田市市市市市市市 増入の図からの広み取り 位置情報は構築 絵文の図からの述み座り
19	120.200074	21.20510500	i al and an	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	12回日報は限時 補入の因からの洗み取り な療法和は細胞 色立の回ふとの速えたか
00	130.303574	32 11660630	1.湖南郊	>50 cm	Machida and Arol (1992)	広照日報は親町 調入の因からの読み取り 位層情想は調覧 過金の回転との速たらい
18	120 9421670	33 33353044	ハロ川田市 1 周南部	>50 cm	Machida and Arel (1983)	山山山市牧は保障 菌乂の図からの読み取り 位勝徳和は螺旋 ぬかの回ふく のまてたこ
02	130.04310/9	22.02506404	7670円面 12周声波	>50 cm	Machida and Arel (1983)	四回用報は親暗 補入の因からの読み取り 位勝徳和は郷政 私立の励みと ヘキアモニ
0.4	131.052505	31 83644000	2011円面)	>50 cm	Machida and Aral (1983)	四回目報は報時 菌乂の因からの読み取り 位勝徳和け郷政 始立の図んとの時を応じ
84	131.052505	31.83644993	/1.)11円前	>50 cm	Invacrida and Aral (1983)	回回自報は戦略 諸又の図からの読み取り 心思症和は頻繁 始大の回しまったの
85	130.8727214	31.83434/44	/L911 開部 1- 円本加	>50 cm	Machida and Arai (1983)	位世国報は機略 溜又の図からの読み取り
86	130.6633843	31.84380823	/1.911開部	>50 cm	machida and Arai (1983)	12回信報は機略 論文の図からの読み取り
87	131.0069434	30.62918114	種十局 第 7 9	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は機略 論文の図からの読み取り
88	130.8899609	30.3/433705	種子局	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は機略 論文の図からの読み取り
89	130.6436819	30.33375583	座头島	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は機略 論文の図からの読み取り
90	127.7727729	27.92394101	奄美大島西方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
91	133.4910764	33.85498092	四国	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
92	133.7324091	34.08177582	四国	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
93	134.4367639	33.91817069	四国	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
94	132.2142578	34.10045329	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
95	132.1918083	34.22175542	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
96	132.4106915	34.34753671	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
97	131.7315924	34.57067823	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
98	132.4640092	35.10052709	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
99	132.8035587	34.79784688	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
<u> </u>					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

表 2.5-3a 姶良 Tn 降下テフラの位置情報, 層厚, 文献リスト

表 2.5-3b	姶良 Tn 降下テフ	ラの位置情報,	層厚,	文献リスト	(続き)
----------	------------	---------	-----	-------	------

No	経度	緯度	データ	層厚	文献	注釈
100	133.3170923	35.35381366	中国地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
101	135.1495373	35.67273285	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
102	135.7248072	35.12358609	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
103	135.9184346	35.05438933	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
104	136.2664028	35.27561028	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
105	135.446994	34.81636348	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
106	135.6097532	34.61245022	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
107	135.7135824	34.11445866	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
108	135.7304196	33.91349158	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
109	135.5031178	33.84327393	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
110	136.2018603	35.69562736	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
111	135.9717523	35.56503991	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
112	136.5273788	36.02457244	近畿地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
113	135.2786223	34.10745627	近畿地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
114	135.2253046	33.91817069	近畿地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
115	135.1130568	34.6959306	近畿地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
116	136.6985567	34.41500747	近畿地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
117	137.4421983	34.82099197	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
118	137.8378717	34.7770107	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
119	137.9781814	34.83487588	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
120	138.1044602	34.72605543	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
121	138.4720717	35.0382349	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
122	138.3037	34.86032357	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
123	137.6302133	35.40897009	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
124	137.2317337	35.42275326	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
125	137.0240753	35.47556667	東海地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
126	138.9350938	34.96434504	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
127	138.9912176	35.38599287	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
128	138.7975902	35.43194071	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
129	138.7246292	35.18350868	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
130	138.5506451	35.93561916	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
131	139.2578061	35.75054713	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
132	140.1193078	35.81914312	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
133	140.1417574	36.10203889	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
134	139,5356194	35,40207762	関東地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
135	137.4983222	36.61047905	北陸地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
136	139 4374026	34.72142157	伊可大島	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
137	139 6843477	35 25259477	関東地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
138	139 7769521	35 57650356	関東地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
139	139 7545026	35 73453281	関東地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
140	139 6113866	35 50769685	関東地方	<10 cm	Machida and Arai (1965)	位置情報は観略 輸入の因からの読み取り
140	120 5215004	25.50709085	周末地力	<10 cm	Machida and Arai (1965)	位置信報は規附 細人の因からの記み取り 位置連載は擱腹 絵立の図からの記み取り
141	120 2774405	25.36336093	関東地方	<10 cm	Machida and Arai (1965)	位置目報は既附 細人の因からの記み取り 位置連想は個敗 絵立の図からの記み取り
142	139.2774495	35.30530772	阅果地力 即本地士	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位直情報は戦略 論文の図からの読み取り
143	139.1427521	35.2571984	関果地方 ↓ □ □ □ ↓ ↓	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は戦略 論文の図からの読み取り
144	139.4205654	36.56974613	信州地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は戦略 論文の図からの読み取り
145	139.1848451	36.92204359	信州地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は戦略 論文の図からの読み取り
146	140.6393941	37.23876904	果北地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は戦略 論文の図からの読み取り
147	140.0542571	37.50732377	東北地方	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は戦略 論文の図からの読み取り
148	139./1588/1	37.54454631	果-北地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は戦略 論文の図からの読み取り
149	140.534705	37.83127334	東北地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
150	133.2575372	36.25162149	隠岐	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
151	133.0186522	36.01561481	隠岐	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は機略 論文の図からの読み取り
152	132.9666416	36.07943354	隠岐	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
153	131.1170679	36.15608066	日本海	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
154	131.9506389	37.41866116	日本海	10-50 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
155	134.258345	36.29387934	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
156	134.9023259	36.73074524	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
157	134.7281188	37.09351797	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
158	135.0673524	37.55450762	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
159	135.0674949	38.32550056	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
160	136.8346381	38.59495092	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
161	131.0839188	38.51546767	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
162	130.8877996	37.48422904	ウルルン島	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
163	130.8982719	37.06572442	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
164	137.6837394	39.04010884	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
165	137.0586769	41.03611278	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
166	132.2710961	40.31297425	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
167	132.6122935	40.88506435	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
168	130.876199	41.32833759	日本海	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
169	140.3711091	40.90443315	東北地方	<10 cm	Machida and Arai (1983)	位置情報は概略 論文の図からの読み取り
170	143.370151	38.89874003	東北地方東方	Tr	青木・新井 (2000)	白鷗丸 KH94-3 LM-8
171	129.1841186	35.55663588	韓国	<10 cm	町田ほか (1983)	
172	129.2795001	35.32995253	韓国	<10 cm	町田ほか (1983)	
173	126.5815295	33.2540448	済州島	<10 cm	町田ほか (1983)	
174	126.4082271	33.47600107	済州島	<10 cm	町田ほか (1983)	
175	137.35	29.39666667	フィリピン海	<10 cm	町田・新井 (1998)	白風丸 KH76-2-7 H10
176	127.0166667	24.75	フィリピン海	<10 cm	町田・新井 (1998)	KT 84-14-P1 C12
177	132.2166667	40.28333333	日本海	<10 cm	町田・新井 (1998)	St.6920 F4
178	132.765	28.385	フィリピン海	<10 cm	町田・新井 (1998)	白鳳丸 KH82-4-8 F10
179	133.3890643	31.45051805	九州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
180	133.6332017	32.50045059	九州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
181	134.4155513	32,19901299	九州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
192	134 4100027	31 95334093	九州四国南古	降反なり	Furuta et al. (1986)	
102	134.8640961	31 231/6/02	カ州四国南古	ドルのワ	Furnita et al. (1986)	
103	136.8753059	32 85085005	カ州国国憲士	ドルのワ 路尼あり	Furnita et al. (1986)	
104	121 1500050	32.03903800 25.01340650	「小川四国南方	PF(入の) ワ 際ににより	European et al. (1900)	
185	131.1300959	23.01348053	ル州四国南方 ロナ海	呼広のり	Funda et al. (1986)	
186	134.332684	37.27384581	口本冊	呼灰めり	Furuta et al. (1986)	
187	129.0112358	31.81131836	九州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
188	129.1776932	31.97700024	ル州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
189	129.0112358	31.81131836	ル州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
190	129.1776932	31.97700024	九州四国南方	降灰あり	Furuta et al. (1986)	
191	141.399	40.659	再止地方	10.3 cm	工職・小林 (2013)	



図 2.5-5 姶良 Tn 降下テフラの分布と等層厚線



図 2.5-6 姶良 Tn 降下テフラの分布と等層厚線(西日本付近)

合・三宅(1999),河合(2001)の陸域の降下テフラ,Smith et al. (2013), Albert et al. (2018)
の水月湖の降下テフラ,新井・町田(1983), Machida and Arai (1983),青木・新井(2000),町
田・新井(1998), Furuta et al. (1986)の海域の降下テフラ,Machida and Arai (1983)の海
域の降下テフラ,町田ほか(1983)の韓国の降下テフラ,工藤・小林(2013)の東北地域北部の
降下テフラの文献データを使用した.

位置情報と層厚データを元に,等層厚線図(1,2,4,8,16,32,64 cm)を作成した(図 2.5-5). 水月湖では,35.1 cmの層厚が報告されている(Smith et al., 2013; Albert et al., 2018) ため,近畿,中部,九州付近に32 cmの等層厚線を引いた(図 2.5-6). 給源付近の宮崎では80 cm,90 cmの層厚が報告されているため,給源付近に64 cmの等層厚線を引いた.各等層厚線が占 める面積をGIS ソフトで計算し,阿蘇4と同様に区間積分法(宝田ほか,2001)で体積を推定し た.



図 2.5-7 姶良 Tn 降下テフラの各等層厚線の面積と単位面積あたりの重量の関係. 8 cm と 32 cm の等層厚線で分割し3つの領域に区分した.火口近傍はカルデラの面積,遠方は3×10¹³ m² まで計算している.

計算に当たっては、8 cm と 32 cm の等層厚線で区切り、グラフ上で直線近似できる 3 つの領 域に区分して体積を求めた(図 2.5-7).火口近傍は、現在の姶良カルデラの面積(5.0×10⁸ m³) まで、遠方は、3×10¹³ m²の領域まで計算した.カルデラ縁での層厚は 32 cm と 64 cm の等層 厚線データの傾きを外挿し、約 3m とした.その結果、遠方から 8 cm の等層厚線の領域では 1.1 ×10¹⁴ kg、8~32 cm の等層厚線の領域では 1.8×10¹⁴ kg、32 cm からカルデラ縁までの領域で は 1.5×10¹⁴ kg となり、合計 4.4×10¹⁴ kg となった.降下テフラの密度を 1,000 kg/m³ と仮定す ると、それぞれ、110 km³、180 km³、150 km³ となった. 今回求められた姶良 Tn 降下テフラの推定体積 <u>440 km³</u>(180 km³DRE)の値は、これまでの 推定値 150 km³以上(町田・新井、2003)よりも有意に増加している.これは、水月湖の層厚デ ータにより、32 cm の等層厚線の範囲が広がったこと、陸域や海域のデータが増え、等層厚線図 の形状が大きく異なること、体積の計算手法が異なることなどが原因であると考えられる.

項目		現存分布		復元分布								
メッシュサイズ		_	500m			1km			5km			
復元堆積面採用値		_	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	
分布面積(km ²)		2.62E+09	1.99E+04	1.87E+04	1.73E+04	2.01E+04	1.85E+04	1.61E+04	2.15E+04	1.83E+04	1.49E+04	
	全域	71.7 (見かけ) - 78.8 (非溶結換算)	721.2	544.4	327.3	813.6	517.5	329.2	1,753.5	599.2	302.2	
見かけ体積 (km ³)	カルデラ外		522.4	344.5	151.5	619.5	317.2	127.4	1,568.7	409.8	80.5	
	カルデラ内		198.8	199.9	175.9	194.1	200.3	201.8	184.8	189.4	221.7	
	全域	31.5	288.5	217.7	130.9	325.4	207.0	131.7	701.4	239.7	120.9	
DRE(km ³)	カルデラ外		209.0	137.8	60.6	247.8	126.9	50.9	627.5	163.9	32.2	
	カルデラ内		79.5	80.0	70.3	77.6	80.1	80.7	73.9	75.8	88.7	

表 2.5-4 姶良入戸火砕流堆積物の体積推定結果

※火砕流堆積物の見かけ密度を1000kg/m³,マグマ換算体積を2500kg/m³で求めた。

始良入戸火砕流堆積物の体積の推定値(表 2.5-4; 平成 28 年度実施)では,500 m メッシュ, 1 km メッシュ、5 km メッシュを用いて,火砕流堆積物の体積を詳細に求めた.その結果,各メ ッシュの推定結果のうち,平均値が妥当であるとされ,体積は 500~600 km³ (200~250 km³DRE)と推定された.したがって,姶良 Tn 噴火の総噴出量は,<u>940~1,040 km³</u>となり,DRE 換算値では,380~430 km³と推定される.姶良 Tn 噴火は,VEI7~8 クラスの噴火であったと 考えられる.

(3) 洞爺噴火

約 106 ka の洞爺噴火に伴う洞爺降下テフラについて,既存の文献から,陸域及び海域の降下テ フラの位置,層厚を集め整理した(表 2.5-5). ここでは,町田ほか(1987)の北海道及び東北地 域,日本海のデータ,工藤(2018)の十和田地域のデータ,古澤(2003)の岩手山東麓のデータ, 八木・早田(1989)の鬼首地域の文献データを使用した.

位置情報と層厚データを元に、等層厚線図(1, 2, 4, 8, 16, 32, 64, 128 cm)を作成した(図 2.5-8). 日高で100 cm, 男鹿で55 cmの層厚(町田ほか, 1987)が報告されており、等高線がや やいびつな形となっている. 各等層厚線が占める面積をGIS ソフトで計算し, 阿蘇4や姶良 Tn と 同様に区間積分法(宝田ほか, 2001)で体積を推定した.

計算に当たっては、2 cm、8 cm、64 cm の等層厚線で区切り、グラフ上で直線近似できる 4 つ の領域に区分して体積を求めた (図 2.5-9). 火口近傍は、現在の洞爺カルデラの面積 (2.3×10⁸ m³) まで、遠方は、1 cm、2 cm の等層厚線のデータの傾きを外挿し、1.5×10¹² m²の領域まで計算した. カルデラ縁での層厚は 64 cm と 128 cm の等層厚線データの傾きを外挿し、約 5m とした. その結果、遠方から 2 cm の等層厚線の領域では 5.1×10¹² kg、2~8 cm の等層厚線の領域

では 8.0×10^{12} kg, $8 \sim 64$ cm の等層厚線の領域では 8.5×10^{13} kg, 64 cm からカルデラ縁までの 領域では 5.0×10^{13} kg となり, 合計 1.5×10^{14} kg となった.降下テフラの密度を 1,000 kg/m³ と 仮定すると,それぞれ、5 km³,8 km³,85 km³,50 km³ となり,合計 <u>150 km³</u> となった.密度 2,500 kg/m³の溶岩換算値 (DRE)では、合計約 60 km³ となった.

No	経度	緯度	データ	層厚	文献	注釈
1	140.5333333	42.98666667	北海道岩内町	80 cm	町田ほか (1987)	
2	140.1483333	42.74833333	北海道島牧村	>10 cm	町田ほか (1987)	
3	140.34	42.47	北海道長万部町	40 cm	町田ほか (1987)	
4	140.2766667	42.365	北海道八雲町	50 cm	町田ほか (1987)	
5	140.9466667	41.93	北海道南茅部町	20 cm	町田ほか (1987)	
6	139.955	42.125	北海道熊石町	15 cm	町田ほか (1987)	
7	141.0883333	41.75666667	北海道尾岸内町	38 cm	町田ほか (1987)	
8	140.805	41.77833333	北海道函館市	50 cm	町田ほか (1987)	
9	140.1316667	41.85333333	北海道江差町	30 cm	町田ほか (1987)	
10	140.4366667	41.67166667	北海道木古内町	20 cm	町田ほか (1987)	
11	139.4366667	42.07166667	北海道奥尻町	18 cm	町田ほか (1987)	
12	140.0533333	41.46166667	北海道松前町	20 cm	町田ほか (1987)	
13	141.9	42.66333333	北海道厚真町	30 cm	町田ほか (1987)	
14	141.9433333	42.60666667	北海道鵡川町	30 cm	町田ほか (1987)	
15	141.4416667	43.245	北海道当別町	25 cm	町田ほか (1987)	
16	141.435	43.21	北海道当別町	32 cm	町田ほか (1987)	
17	143.1433333	42.50166667	北海道大樹町	100 cm	町田ほか (1987)	
18	143.315	42.315	北海道広尾町	30 cm	町田ほか (1987)	
19	141.655	44.31	北海道苫前町	10 cm	町田ほか (1987)	
20	141.6933333	44.35833333	北海道羽幌町	10 cm	町田ほか (1987)	
21	143.485	42.525	北海道大樹町	10 cm	町田ほか (1987)	
22	143.7316667	42.73666667	北海道浦幌町	20 cm	町田ほか (1987)	
23	142.8033333	44.71	北海道枝幸町	tr	町田ほか (1987)	
24	144.6866667	43.35666667	北海道別海町	tr	町田ほか (1987)	
25	144.65	43.86333333	北海道斜里町	tr	町田ほか (1987)	
26	141.1083333	41.45833333	東北地方風間浦村	18 cm	町田ほか (1987)	
27	141.3583333	41.33833333	東北地方東通村	20 cm	町田ほか (1987)	
28	140.86	41.16	東北地方脇野沢村	26 cm	町田ほか (1987)	
29	141.1583333	40.88	東北地方野辺地村	14 cm	町田ほか (1987)	
30	141.2666667	40.76333333	東北地方東北町	10 cm	町田ほか (1987)	
31	141.455	40.54	東北地方八戸市	10 cm	町田ほか (1987)	
32	141.165	39.89833333	東北地方玉山村	8 cm	町田ほか (1987)	
33	141.9616667	39.75166667	東北地方田老町	8 cm	町田ほか (1987)	
34	140.8816667	38.855	東北地方栗駒町	3 cm	町田ほか (1987)	
35	140.46	41.17833333	東北地方今別町	27 cm	町田ほか (1987)	
36	140.4616667	40.94166667	東北地方中里町	20 cm	町田ほか (1987)	
37	140.6333333	40.96666667	東北地方蓬田村	14 cm	町田ほか (1987)	
38	140.21	40.77166667	東北地方鰺ヶ沢町	20 cm	町田ほか (1987)	
39	140.0716667	40.75166667	東北地方深浦町	>15 cm	町田ほか (1987)	
40	140.9583333	40.66333333	東北地方深浦町	12 cm	町田ほか (1987)	
41	140.3783333	40.33	東北地方八ツ森町	12 cm	町田ほか (1987)	
42	140.0483333	40.16833333	東北地方能代市	20 cm	町田ほか (1987)	
43	140.045	40.1	東北地方八竜町	13 cm	町田ほか (1987)	
44	139.8616667	39.965	東北地方男鹿市	55 cm	町田ほか (1987)	
45	139.9066667	39.93833333	東北地方男鹿市	6 cm	町田ほか (1987)	
46	139.0416667	41.42666667	日本海松前海台	1-2 cm	町田ほか (1987)	
47	140.9281389	40.50063889	東北地方十和田湖北東部	10-20 cm	工藤 (2018)	
48	140.9365833	40.52377778	東北地方十和田湖北東部	10 cm	工藤 (2018)	
49	140.9743333	40.51477778	東北地方十和田湖北東部	10-20 cm	工藤 (2018)	
50	140.9552222	40.48108333	東北地方十和田湖北東部	22 cm	工藤 (2018)	
51	141.159675	39.899425	東北地方岩手山北東山麓	4 cm	古澤 (2003)	層厚は柱状図からの読み取り
52	140.7372611	38.82700556	東北地方鬼首	8 cm	八木・早田 (1989)	
53	140.7262694	38.8388	東北地方鬼首	10 cm	八木・早田 (1989)	

表 2.5-5 洞爺降下テフラの位置情報, 層厚, 文献リスト



図 2.5-9 洞爺降下テフラの各等層厚線の面積と単位面積あたりの重量の関係. 2 cm, 8 cm, 64 cm の等層厚線で分割し4 つの領域に区分した.火口近傍はカルデラの面積,遠方は 1.5×10¹² m² まで計算している.

今回求められた洞爺降下テフラの推定体積 <u>150 km³</u> (60 km³DRE)の値は、これまでの推定値 150 km³以上(町田ほか、1987;町田・新井、2003)と同じ値となった.

区分			五 穂 (12)	噴出量(km ³)		
			山付(Km)	平均	最大	
		現存	173.9	3.9	8.3	
		復元	3,367.5	51.7	104.5	
	見かけ	カルデラ内	109.6	27.4	54.8	
		総計(現存)	283.5	31.3	63.1	
洞爺火砕流		総計(復元)	3,477.1	79.1	159.3	
堆積物		現存	173.9	1.9	4.0	
		復元	3,367.5	24.8	50.2	
	DRE	カルデラ内	109.6	13.1	26.3	
		総計(現存)	283.5	15.0	30.3	
		総計(復元)	3,477.1	38.0	76.5	

表 2.5-6 洞爺火砕流堆積物の体積推定結果

洞爺火砕流堆積物の体積の推定値(表 2.5-6; 平成 29 年度実施)では,火砕流堆積物の体積を 詳細に求めた.その結果,80 km³(平均値)~160 km³(最大値), DRE 換算値では,40 km³(平 均値)~80 km³(最大値)と推定された.この推定値は,既存のGoto et al. (2018)の火砕流堆積物 の推定値 36.8 km³以上や,町田ほか (1987)の火砕流堆積物の推定値 20 km³以上と比較して, 2~8 倍程度となった.したがって、洞爺噴火の総噴出量は、230~310 km³となり、DRE 換算値では、100~140 km³と推定される.洞爺噴火は、VEI7 クラスの噴火であったと考えられる.

(4) まとめ

阿蘇4噴火,姶良Tn噴火,洞爺噴火に伴う降下テフラの噴出量の推定を行った.推定に当たっては,既存の陸域及び海域の降下テフラの情報をコンパイルし,新たに等層厚線図を作成した上で,降下テフラの噴出量と,総噴出量を推定した.区間積分法(宝田ほか,2001)による推定では,阿蘇4降下テフラの体積は,590~920 km³(240~370 km³DRE)と推定され,火砕流堆積物と合わせた阿蘇4噴火の総噴出量は,<u>840~1,640 km³</u>(380~790 km³DRE)となった.姶良Tn降下テフラの体積は,440 km³(180 km³DRE)と推定され,火砕流堆積物と合わせた姶良Tn噴火の総噴出量は,<u>940~1,040 km³</u>(380~430 km³DRE)となった.洞爺降下テフラの体積は,150 km³(60 km³DRE)と推定され,火砕流堆積物と合わせた洞爺噴火の総噴出量は,<u>230~310 km³</u>(100~140 km³DRE)となった.

海底降下テフラなどのデータが増えて来ており、これらを使って他の大規模カルデラ形成噴火 の降下テフラの噴出量の見直しを進めていく必要がある.また、他の降下テフラの算出方法の適 用による推定した噴出量の検証も必要である.今回の総噴出量推定では、阿蘇4噴火と姶良Tn 噴火は1,000km³以上の噴出量であった(VEI8)可能性があることが示された.大規模カルデラ 形成噴火の噴出量推定結果が、今後の長期的噴火予測、噴火の活動度評価、地球物理学的・岩石 学的な定量的評価にとって、重要な基礎データとなることが期待される.

文献

- Albert, P. G., Smith, V. C., Suzuki, T., Tomlinson, E. L., Nakagawa, T., McLean, D., Yamada, M., Staff, R. A., Schlolaut, G., Takemura, K., Nagahashi, Y., Kimura, J. and Suigetsu 2006 Project Members (2018) Constraints on the frequency and dispersal of explosive eruptions at Sambe and Daisen volcanoes (South-West Japan Arc) from the distal Lake Suigetsu record (SG06 core). Earth-Science Reviews, vol.185, p.1004-1028.
- 青池 寛・西 弘嗣・坂本竜彦・飯島耕一・土屋正史・平 朝彦・倉本真一・眞砂英樹・下北コア微 化石研究グループ (2010) 地球深部探査船「ちきゅう」の下北半島沖慣熟航海コア試料—物 性変動から予測される古環境変動—. 化石, no.87, p.65-81
- Aoki, K. (2008) Revised age and distribution of ca. 87 ka Aso-4 tephra based on new evidence from the northwest Pacific Ocean. Quaternary International, 178, 100-118.
- 青木かおり・新井房夫 (2000) 三陸沖海底コア KH94-3, LM-8 の後期更新世テフラ層序. 第四紀 研究, 39, 107-120.
- 青木かおり・山本浩文・山内守明 (2000)「みらい」MR98-03 次航海及び MR99-K04 次航海で採 取された海底コアの第四紀後期テフラ層序.海洋科学技術センター試験研究報告, no.41, p.49-55
- 新井房夫・町田 洋(1983)日本列島周辺の深海底テフラ・カタログ.日本列島周辺の深海底堆 積物の分析を中心とした第四火山活動と気候変動の研究,昭和 57 年度科学研究費補助金(総

合研究 A)研究成果報告書, 7-34.

- 新井房夫・大場忠道・北里 洋・堀部純男・町田 洋 (1981)後期第四紀における日本海の古環境 —テフロクロノロジー,有孔虫群集解析,酸素同位体比法による—. 第四紀研究, 21, 209-230.
- 檀原 徹・山下 透・岩野英樹・竹村恵二・林田 明(2010) 琵琶湖 1400m 掘削試料の編年_フィッション・トラック年代とテフラ同定の再検討. 第四紀研究, 49, 101-119.
- 古澤 明(2003)洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別.地雑,109,1-19.
- Furuta, T., Fujioka, K. and Arai, F. (1986) Widespread submarine tephras around Japan— Petrographic and chemical properties. Marine Geology, 72, 125-142.
- Goto, Y., Suzuki, K., Shinya, T., Yamauchi, A., Miyoshi, M., Danhara, T. and Tomiya, A. (2018) Stratigraphy and lithofacies of the Toya ignimbrite in southwestern Hokkaido, Japan: insights into the caldera-forming eruption at Toya Caldera. *Jour. Geography*, 127, 191-227.
- 河合小百合(2001)姶良 Tn 火山灰(AT)の等層厚線図と分布軸の再検討. 地球科学, 55, 51-54.
- 河合小百合・三宅康幸(1999) 姶良 Tn テフラの粒度・鉱物組成―広域テフラの地域的変異の一 例―. 地質雑, 105, 597-608.
- 工藤 崇 (2018) 十和田火山先カルデラ期噴出物に挟まれる洞爺火山灰.地質調査研究報告, 69, 31-36.
- 工藤 崇・小林 淳 (2013) 十和田火山, 先カルデラ期~カルデラ形成期テフラの放射年代測定. 地質調査研究報告, 64, 305-311.
- Machida, H. and Arai, F. (1983) Extensive ash falls in and around the Sea of Japan from large late Quaternary eruptions. Jour. Volcanol. Geotherm. Res., 18, 151-164.
- 町田 洋・新井房夫(1998)日本列島周辺の深海底に分布するテフラ.第四紀研究, 26, 227-242.
- 町田 洋・新井房夫・李 柄高・森脇 広・江坂輝弥 (1983) 韓半島と済州島で見出された九州起 源の広域テフラ. 地学雑誌, 92, 39-45.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢 (1985) 阿蘇 4 火山灰-分布の広域性と後期更新世指標層としての 意義-. 火山, 30, 49-70.
- 町田 洋・新井房夫・宮内崇裕・奥村晃史(1987)北日本を広くおおう洞爺火山灰. 第四紀研究, 26, 129-145.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編 火山灰アトラス -日本列島とその周辺-.東京大学出版会.336p. 長橋良隆・佐藤孝子・竹下欣宏・田原敬治・公文富士夫 (2007) 長野県,高野層ボーリングコア
 - (TKN-2004)に挟在する広域テフラ層の層序と編年.第四紀研究, 46, 305-325.
- 中川光弘・藤岡換太郎・古田俊夫・小泉聡子 (1994) 日本海, Leg.127, 128 コア中の火山灰層. 月刊地球, 16, 691-698.
- 中嶋 健・吉川清志・池原 研・片山 肇・木川栄一・上嶋正人・瀬戸浩二 (1996) 日本海南東部に おける海底堆積物と後期第四紀層序-特に暗色層の形成時期に関連して-. 地質学雑誌, 102, 125-138.
- 清水秋秀・鳥井真之・椎原美紀・尾田太良(1997) 三陸沖海底コア KH94-3 LM8 PC5 の最下部 付近にみられる火山灰層から推定される基底の年代. 熊本大学理学部紀要(地球科学), 15, 1-

7.

- 白井正明・多田隆治・藤岡換太郎 (1997) ODP 日本海試料との対比に基づく男鹿半島安田海岸更 新世中-後期テフラの同定と年代. 第四紀研究, 36, 183-196.
- Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T. and Suigetsu 2006 Project Members (2013) Identification and correlation of visible tephras in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150ka. *Quaternary Science Reviews*, 67, 121-137.
- 宝田晋治・吉本充宏・北川淳一・平賀正人・山元孝広・川邊禎久・高田 亮・中野 俊・星住英 夫・宮城磯治・西村裕一・三浦大助・廣瀬 亘・石丸 聡・垣原康之・遠藤祐司・野呂田 晋・ 新井田清信・石塚吉浩・工藤 崇・相沢幸治・本間宏樹・江草匡倫・石井英一・高橋 良(2001) 有珠火山 2000 年噴火の降灰と火口近傍の状況.地質調査研究報告, 52, 167-179.
- 竹村恵二・横山卓雄 (1989) 琶琵湖 1400m 掘削試料の層相からみた堆積環境. 陸水学雑誌, 50, 247-254.
- 八木浩司・早田 勉(1989)宮城県中部および北部に分布する後期更新世広域テフラとその層位. 地学雑誌, 98, 39-53.